

## 2004年6月の大気大循環と世界の天候

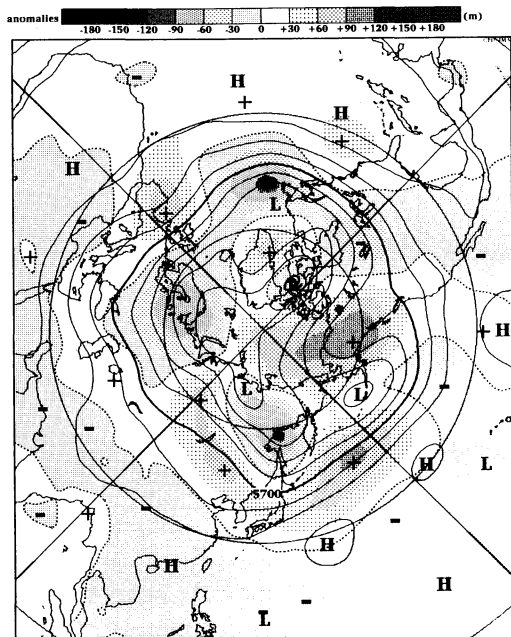
### 大気大循環

北半球500 hPa 高度は、アラスカ付近ではリッジ場が強く、月を通してブロッキング高気圧が見られた。一方、カナダ東部から、北大西洋、北欧、東シベリアにかけては負偏差に覆われた。日本付近については、北太平洋の日付変更線付近とバイカル湖を中心とする帯状の正偏差に覆われた。

熱帯の対流活動は、フィリピン付近からその東方海上にかけてと赤道域の150~180°E 付近で平年に比べてかなり活発となった。一方、ベンガル湾やインド亜大陸の対流活動はほぼ平年並だった。太平洋の ITCZ やアメリカモンスーンは平年よりやや北寄りだった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、ベンガル湾付近からフィリピンの東海上にかけてとニューギニア島付近に低気圧性循環偏差が分布し、日本付近は東海上を中心に高気圧性循環偏差が見られた。太平洋高気圧は華南方面への張り出しが弱く、日本付近への張り出しが強かった。インド洋の中部から西部には高気圧性循環偏差が分布して、ソマリジェットが平年よりも強かった。160°E 以西の太平洋赤道域は全域で東風偏差となった。

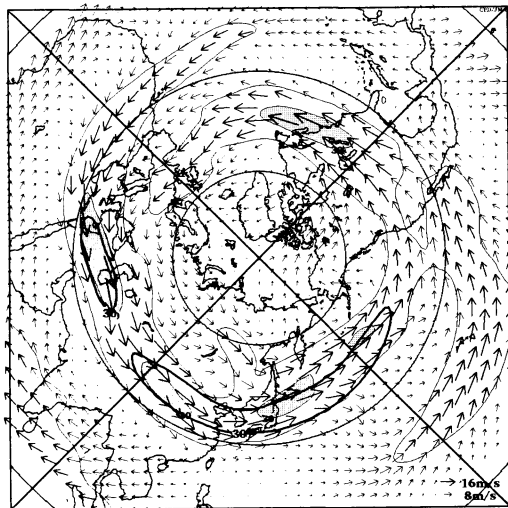
SOI (南方振動指数) は-1.1で前月の+1.2から符号が反転した。



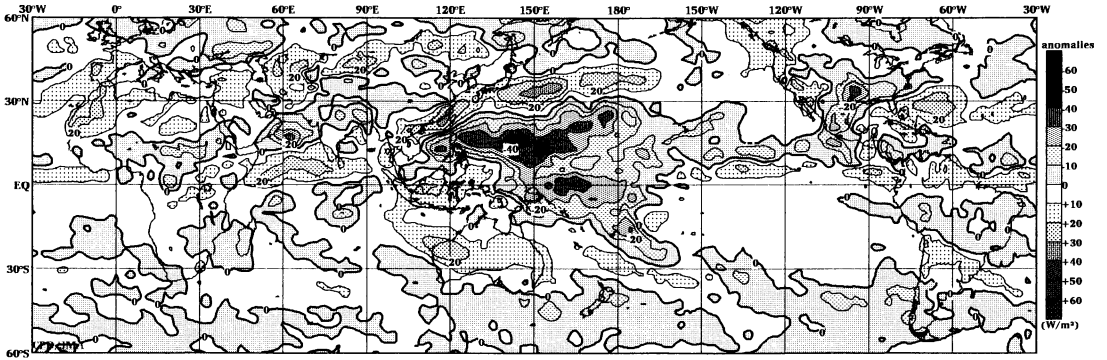
2004年6月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差  
等値線間隔は 60 m, 偏差パターン間隔は 30 m, 平年値は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。

### 世界の天候

- ① 中国東北区周辺の少雨
- ② 東日本からモンゴルの高温
- ③ インドネシアの高温
- ④ ウクライナ周辺の少雨
- ⑤ ヨーロッパ西部からアフリカ北西部の高温  
スペインでは下旬に熱波により数人が死亡したほか、電力消費量の記録更新も報じられた。
- ⑥ アルジェリア北部の多雨
- ⑦ 米国北東部の低温
- ⑧ 米国南部からメキシコの多雨  
米国中西部から南部では、繰り返し雷雨、雹、竜巻などに見舞われ、9人が死亡したほか、停電や農作物の被害なども報じられた。
- ⑨ アラスカからカナダ西部の高温  
カナダのドーソンでは、月平均気温が17.5°Cとなった(平年:13.5°C)。
- ⑩ オーストラリア東部の少雨
- ⑪ オーストラリア南部の多雨  
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 福山幸生)

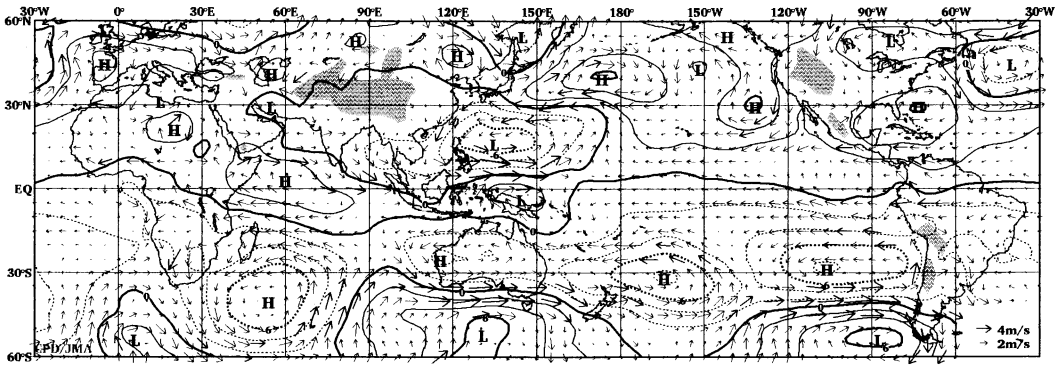


2004年6月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル  
等値線間隔は 15 m/s, 陰影部は 30 m/s 以上, 太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s 以上の領域を示す。平年値は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



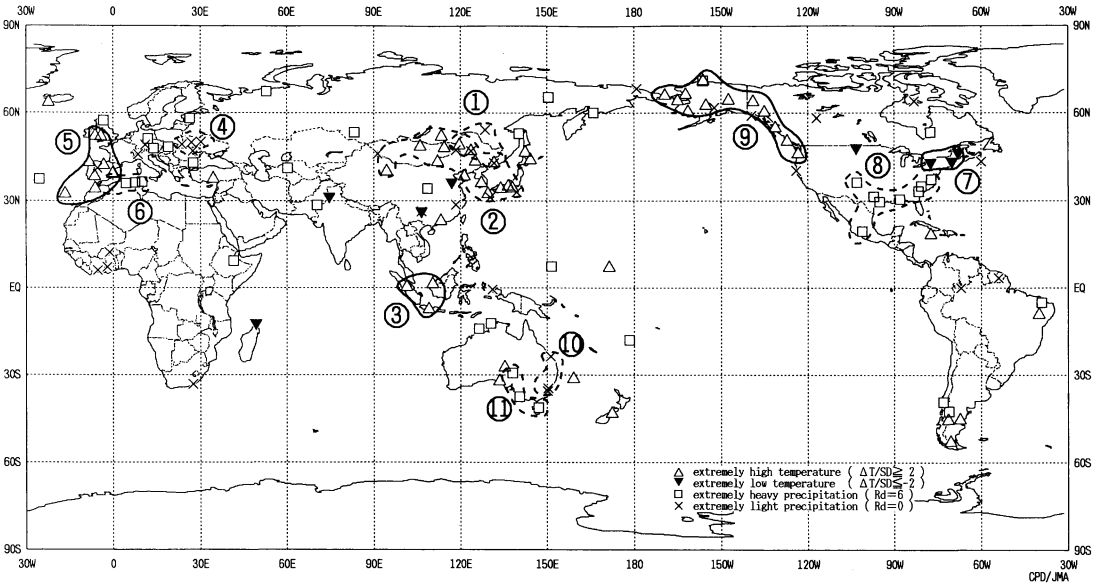
2004年6月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはCPC/NCEP/NOAA、平年値は1979~2000年のデータから作成。



2004年6月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2004年6月の世界の異常天候分布図

△異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。